

平成29年度 実践力養成型インターンシップ
インターンシップフェア

**プロジェクト紹介
パンフレット**



インターンシップへのエントリーの流れ

Step

1

インターンシップフェアに参加して興味のあるプロジェクトを探そう！

フェアに参加していなくてもエントリーは可能です。
プロジェクトの詳細が聞きたい方は、COC プラス推進本部まで！

Step

2

エントリーシート（履歴書）を入手しよう！

インターンシップへの参加を希望する方には、エントリーシートを提出してもらいます。
指定のフォーマットがありますので、下記のいずれかの方法で入手してください。

- ①インターンシップフェアに参加する（配布資料としてお渡しします）
- ②COCプラス推進本部にて入手する

※書き損じて追加のシートが必要な場合もCOCプラス推進本部まで！

Step

3

エントリーシート（履歴書）を記入しよう！

エントリーシート（履歴書）に必要事項を記入します。
エントリーシート（履歴書）を書いたことがない、書き方が分からない、という方のために、「エントリーシート書き方講座」を開催します。こちらの講座は、履歴書の書き方基礎をお伝えする講座となります。申し込みは不要です。

- エントリーシート書き方講座 5月18日（木）14：30～15：30
@徳島大学地域創生・国際交流会館3階 共用室301

※上記講座日以外も、エントリーに関する相談を随時受け付けています。
お気軽にCOCプラス推進本部までお越しください。

Step

4

エントリーシートを提出しよう！ 5月25日（木）締め切り

エントリーシートが記入できたら、COCプラス推進本部に提出してください。

★締め切り：5月25日（木）12：00（正午）★

※本インターンシップは、「実践力養成型インターンシップⅠ」（前期）・「実践力養成型インターンシップⅡ」（後期）または「短期インターンシップ」（通年）を履修することで単位の修得が可能です。もちろん単位とは関係なく参加する「自由応募」も大歓迎です。

※「実践力養成型インターンシップⅠ」を履修される方は **5月25日（木）までにマークカードに必要事項を記載して担当教員に提出し**、履修登録を行ってください。

- ・マークカード入手場所…教養教育4号館1階 教養教育係
- ・マークカード提出先…COCプラス推進本部 担当教員：川崎克寛

Step

5

受入企業の担当者と面談！ 5月下旬～6月中旬

エントリー締め切り後、5月下旬から6月中旬ごろに、エントリー先の企業担当者の方と面談を行ないます。日程はエントリー学生と企業担当者の予定を調整して決定します。面談の形式や場所についてはプロジェクト毎に異なります。

面談後、インターンシップへの参加が確定したら、事前研修を経て、夏休み前後からインターンシップ開始となります。

H29年度 実践力養成型インターンシップ 年間スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
ガイダンス	インターンシップフェア	採用マッチング	事前研習	インターン開始		中間報告会	インターン完遂	最終報告会	振り返り会
実践力養成型インターンシップガイダンスに参加	企業担当者から学生にプロジェクトを紹介するイベントを開催 ●5月11日 13時～17時30分 希望プロジェクトへエントリーする	エントリー先の担当者と面談を実施 採用の可否決定	インターンシップ開始前に社会人としての基礎、マナーなどを学ぶ。プロジェクトの推進に必要な基礎知識を学ぶ。	プロジェクト毎にインターンシップ開始		プロジェクトの進捗を報告する中間報告会を開催		プロジェクトの成果を報告する最終報告会を開催	インターンシップに参加しての学びや気づきの振り返り会を開催
									
									

インターンシップ参加にあたっての注意事項

<保険の加入について>

インターンシップ中の事故に備えて、インターンシップ参加者は下記①もしくは②の保険に加入する必要があります。

①学研災 ●学生教育研究災害障害保険（通称：学研災） ●学研災付帯賠償責任保険Bコース（通称：学研災インターン賠）

②大学生協保険 ●総合共済 ●学生賠償責任保険

※理工学部学生は入学時に自動加入していますので、原則手続き不要です。ただし、原則4年間契約のため、留年している学生は期限切れになっている可能性もあります。別途必ず確認してください。

※理工学部以外の学生は、別途必ず確認してください。

※保険に加入していない学生は、担当教員もしくはCOCプラス推進本部スタッフにご相談ください。

<誓約書について>

インターンシップ中にトラブルが発生した場合に備え、受入先との間に誓約を結びます。所定の誓約書に記入し、受入先に提出してください。（誓約書は、受入先もしくはCOCプラス推進本部よりお渡します。）

<守秘義務について>

インターンシップ先での活動では企業機密や個人情報に触れる機会がありますが、このような情報を外部に漏洩したり公開したりすることは、法的責任を課される場合もあります。無許可での資料のコピーや外部への持ち出し、WEBへのアップロードなどは決して行わないでください。

お問い合わせ・エントリーシート提出先

徳島大学COCプラス推進本部事務局

徳島大学常三島キャンパス内 地域創生・国際交流会館3階（地域創生課内）担当：川崎/宮本/森脇

TEL：088-656-9885 FAX：088-656-9880 MAIL：coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp

H29年度 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ プロジェクト紹介パンフレット 目次

5
ペ
ー
ジ

日本赤十字社 徳島県赤十字血液センター
「献血に行こう！献血しよう！」
若者が振り向く献血キャンペーンの策定



株式会社 QLiP
効果的かつ効率的な
プログラミング教育の開発

7
ペ
ー
ジ

9
ペ
ー
ジ

一般社団法人徳島新聞社
新聞のまだ見えていない価値を見出し、
その魅力を伝えよう！



港産業株式会社
ロボットを活用して
社会の課題を解決しよう！

11
ペ
ー
ジ

13
ペ
ー
ジ

株式会社テレコメディア
コールセンターアルバイトのブランディング
身につく力の発信プロジェクト



徳島トヨタ自動車株式会社
Top of TOYOYA
ひとを、地域を、もっと笑顔に。

15
ペ
ー
ジ

17
ペ
ー
ジ

徳島大学大学院社会産業理工学研究部
地域に開かれた大学の在り方を考える



19
ページ

大塚テクノ株式会社

社員が生き生きと健康的に働ける
職場の環境整備を検討しよう！



アール・エスホーム株式会社

よりよいこれからの暮らしに
コミットできる企業を目指して

21
ページ

23
ページ

有限会社榎山農園

中長期における経営戦略を策定する



株式会社松本コンサルタント

「100年先に誇れる仕事を」
未来を支える人財採用のツール作成

25
ページ

27
ページ

一般社団法人 Disport

地方からはじめる。
未来を生き抜く子供を育てる教育法の開発



株式会社あわわ

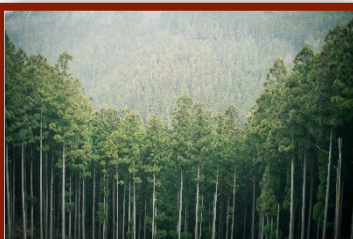
メディア あわわ 新たなる挑戦！

29
ページ

31
ページ

株式会社グローバル・アシスト

地域包括ケアシステムの構築
～地域の健康サポート拠点を目指して～



廣間組有限会社

地域資源を用いた環境活動の
事業化プロジェクト

33
ページ

「献血に行こう！献血しよう！」 若者が振り向く献血キャンペーンの策定

プロジェクト①

「人間を救うのは、人間だ」若者の献血に対するイメージを刷新する広報ツールを作成しよう！
目指せ！徳島大学内献血昨年度実績 120%！

日本赤十字社徳島県赤十字血液センター
徳島市庄町3丁目12-1

どんな団体？

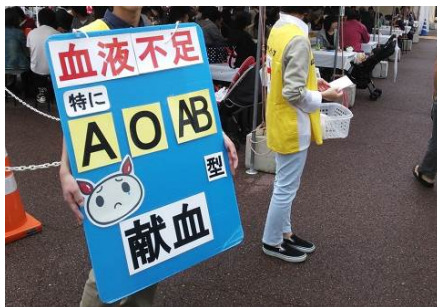
日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命のもと、災害救護やボランティア育成など幅広い分野で活動しています。

その中で血液事業は、全国 18 の血液センターと 129 の献血ルーム、292 台の献血バスを稼働させ、献血受入から供給まで行っています。（平成 28 年 3 月 31 日時点）。

血液センターの業務は、献血者を募るところから始まります。献血は、健康な人が輸血を必要とする患者さんのために、自発的に無償で血液を提供するボランティアです。

血液センターではその血液をお預かりし、それを原料として輸血用血液製剤を製造しています。病院等からの依頼に応じ、昼夜を問わず治療を必要とする患者さんにお届けしています。

つまり血液センターは、献血者の善意と患者さんをつなぐ団体と言えます。



チャレンジしてる事は？

赤十字の使命は、「苦しんでいる人の命を救うこと」です。

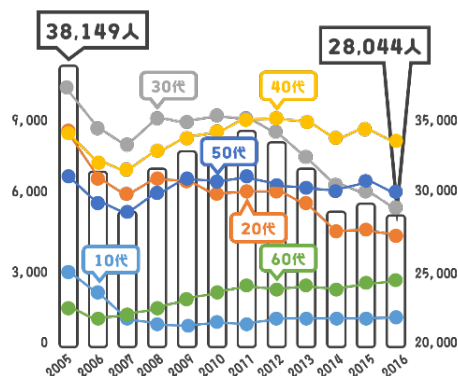
助かるはずの命が助からない…。そんな事態に陥ることのないよう必要な量の血液を確保すること、つまりは献血者数を維持していくことが血液センターの最大のミッションです。

しかし、近年、献血者の人口は減少しています。特に若い世代が急激に減っています。少子高齢社会の今、輸血用血液の需要は高まることが予想されますが、数年後には必要数の確保が困難になることが推定されています。

人の命を救う為、1人でも多く献血者を増やし、助かる命を救い続けることができるよう、励んでいます。



徳島県の年代別献血者数の推移



若者が振り向く献血キャンペーンの作成

取り組む課題

STEP01

現状把握とヒアリング調査

ヒアリング報告書の作成

現在の献血事情について知ってもらうため、献血現場に赴き、献血に対する実態調査を行ないます。
具体的には、献血者・血液センター職員・輸血により現在日常生活を送ることができるようになった方々の3者に対し、ヒアリングを行ないます。なぜ献血をするのか、この仕事に対する思いなどを、深く丁寧に調査します。

STEP02

情報を分析し、広報媒体を作成する

広報媒体の作成

研修やヒアリング結果から、若者の献血への意識を啓発させていくためのアプローチを考えます。考えたアプローチに沿って、今までの「献血」キャンペーンには無かった視点から広報媒体を作成します。学生の新鮮で柔軟な意見を取り入れることで、発想を変えた企画ができることを期待しています。

STEP03

活動行程の検証

キャンペーン実施報告書の作成

作成した広報媒体を用い、徳島大学内で宣伝活動を行ない、活動の前後には献血に対するイメージ調査を実施し、広報の効果を検証します。

到達目標

「献血に対する意識高揚」に有効な広報手法の提案

献血に対する意識高揚に有効なアプローチや視点を明らかにします。
これにより、他の広報媒体やイベント等にも同様の要素を取り入れていくことができます。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



徳島県赤十字血液センター
献血推進課 主事
藤倉 温



アパレル企業のレナウンから発売された靴下「フレッシュライフ」をご存知ですか。発売当時はあまり売れなかったそうですが、商品名を「通勤快足」に変えてから売り上げが10倍にもなったそうです。

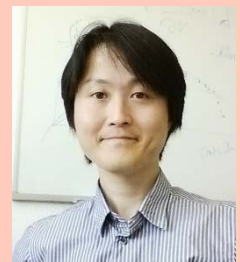
イメージが変わることで献血に興味を持てるようになる。今まで赤十字職員の誰もができなかったことを可能にする、そんなワクワクな事業と一緒に取り組んでいただけませんか。

<ドン（学内メンター）から一言>

皆さんは献血に行ったことはありますか？献血にどんなイメージをお持ちでしょうか？

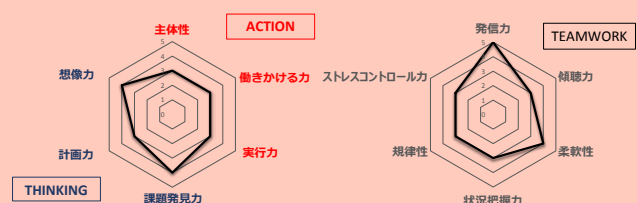
献血は助け合いの精神で成り立っており身近な社会貢献活動です。若者の献血離れが叫ばれていますが、本インターンシップでは真っ向からこの問題に立ち向かおうと思っています。

一緒に画期的かつ独創的な広報を考えて、人々の意識を変えましょう！



徳島大学大学院
社会産業理工学研究所
生物資源産業学域
助教
後藤 優樹

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



効果的かつ効率的なプログラミング教育の開発

- ①実際の小学校教育の声を取り入れて、
プログラミング教育の現場におけるクラスマネジメントを行おう！
- ②新しい教育ツールを開発し、子供達に教えよう！

株式会社 QLiP

徳島市安宅3丁目3-15 オフィス吉野川2階

どんな会社？

株式会社 QLiP（クリップ）とは、徳島駅前と城東中学校前にあるユニークな学習塾です。Qはクエスト（探求）、Lはロジック（論理）、Iはイシューソルビング（問題解決）、Pはプレゼンテーション（発表・発現）を意味します。これまでの詰め込み型授業ではなく、HOW（どうして）とWHY（なぜ）を学ぶ能力を大切にして、徳島の子供達達が世界に通用する人になってほしいと考えています。

そのためのツールとして提供しているのが、「プログラミング学習」です。

プログラミングは子どもが楽しく学ぶことを通じて、自ら考え創造する力を養うことができます。

徳島の多くの子ども達がプログラミングを学ぶことによって、未来を切り拓く力を身に付けてもらいたいと願っております。



チャレンジしてる事は？

2020年より小学校でのプログラミング教育が必修化されます。今後不足されると予測されているIT人材の育成という背景もさることながら、プログラミングの学習に伴う「論理的な思考力と問題解決能力の育成」という側面が、全世界がプログラミング教育に注目している理由です。

東京等の都市部においてはプログラミング教育に関する認知とその重要性が高まりつつありますが、徳島のような地方においてはまだまだ認知が進んでいないのが現状です。

クリップでは「地方にこそプログラミング教育は必要」という考えから、論理的思考のできる子供達を育成するツールとしてプログラミングをもっともっと普及させたい、プログラミングを通じてこれからの時代を切り開いてほしいとの想いを抱き、様々なプログラミングイベントや講座の企画・運営を行なっています。



挑戦するプロジェクトについて

- ①プログラミングの教育現場における環境設定を行う
- ②本格的なプログラミングを学べる学習ツールの開発

取り組む課題

STEP01

講師補助参加
レポートの作成

プロジェクト①
授業環境のマネジメントを行なう
現状を把握する

まずは当社が実施する授業に講師補助として参加してもらい、現状の指導方法を観察してもらいます。

STEP02

ヒアリング報告書・
ワークショップレポート
の作成

ヒアリング調査を行なう

小学校の先生に、プログラミングの指導方法等ヒアリングを行ないます。

STEP03

授業プログラム
企画書作成

授業プログラムを検討する

少人数のメンターで学年の異なる複数の生徒に対して効果的かつ効率的に授業を行なうための環境設計を行ないます。

STEP04

授業実施報告書
の作成

公開授業を実施する

プログラミング授業を実施し、皆さんが考えた授業プログラムの検証を行ないます。子供達はもちろん、児童の保護者、先生等から広くフィードバックを集めます。

プロジェクト②
授業プログラムの開発を行なう

現状を把握する

まずは当社が実施する授業に講師補助として参加してもらい、現状の指導方法を観察してもらいます。

ワークショップに参加

浮田先生によるワークショップに参加し、指導方法を学びます（約2回）。

授業プログラムを検討する

「いかにテキストを用いたプログラミングを楽しんで学べるか」について授業プログラムを検討します。

授業を実施する

当社に通塾している生徒を対象に、検討した授業を実施します。数回にわたり授業を行い、その学習効果について検証を行います。

到達目標

授業プログラムに関する報告書の作成

効果的かつ効率的な授業プログラムが策定されることで、様々な学年の生徒に対する少人数メンターでの一斉プログラミング授業の確立に近づきます。

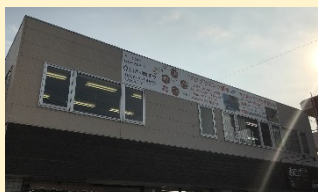
中高生に対するテキストコーディングを用いた学習方法が策定されることで、発展的なプログラミング学習方法が期待できます。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



QLIP
情報責任者
江本 大輔



2020年より小学校でのプログラミング教育が必修化されます。これに伴い、「プログラミング教育」の認知度は高くなりましたが、同時に見えてきたのは課題山積の現状です。

このプロジェクトを通して最新の学習ツールであるプログラミングがどう活用されていくのか皆さんと取り組み、問題解決能力を磨いていただければと思います。

<ドン（学内メンター）から一言>

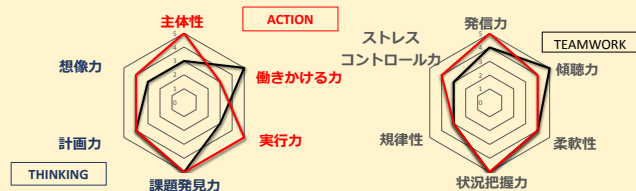


徳島大学大学院
社会産業理工学研究所
理工学域
講師
浮田 浩行

様々な製品にコンピュータが使われ、インターネットを用いたサービスが展開されている現在、プログラミング技術は実は就職する学生にこそ必要なスキルです。ここでは、子供達に教えるという立場から、みなさん自身もより深くプログラミング技術を修得できます。

また、企画立案や情報収集、プレゼン方法等の様々な知識・技術も学べますので、是非ご参加ください。

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



※黒線…プロジェクト① 赤線…プロジェクト②

新聞のまだ見えていない価値を見出し、 その魅力を伝えよう！

聞き取り調査を通じて新聞のまだ見えていない価値を見出し、
読者にその価値を伝える販売促進のツールを作成しよう！

一般社団法人徳島新聞社
徳島市中徳島町2丁目5番地2

どんな会社？

徳島新聞社は「県民と共に行く」を信条にした、徳島県民に寄り添う報道で高く評価されている新聞社です。

朝刊、夕刊を発行し、地元ニュースから世界各地のニュースまで新鮮情報を幅広くお届けしています。県内外に取材拠点（支局）を多数設置し、スタッフの熱意あふれる取材と迅速な情報の編集により県民の皆さまのお手元に届けられています。朝刊部数は23万部を超え、世帯普及率74%超は全国有数の高さを誇っています。

新聞社の仕事は、大きくは社会で起こっていることを取材して記事にする「記者」の仕事と、新聞をできるだけ多くの人に読んでもらうための事業を進める「営業」の仕事に分けられます。

営業の中でも、販売部は、新聞社の主な収入源である販売収入を確保する重要な部署です。県内には、100店を超える販売店があり、市街はもちろん山奥から岬まで、どんな場所であろうと毎日、新聞をお届けしています。



チャレンジしてる事は？

スマートフォンやタブレットなどの携帯端末の普及などをはじめとする、生活様式の変化により、「新聞の存在価値」が見え辛くなっている昨今ですが、「新聞の役割は情報伝達のみならず」、今こそ新聞の持つ多様な利用価値を読者の皆さまに対して再認識していただく機会であると捉えています。

新聞を、変化著しい生活に沿い、役立つものとして可視化し、「現代の新聞メディア」の在り方を確立すべく、日々、社員一丸となって取り組んでいます。



挑戦するプロジェクトについて

暮らしの中に「新聞の価値を創造する」ための市場調査 ～新しい新聞の価値を見出し、販売促進の方針を提案する～

取り組む課題

STEP01

現状を把握する

ヒアリング調査書の作成

新聞の作り手である徳島新聞社社員にインタビューを行うとともに、現読者と未読者に対してヒアリング調査を行い、調査対象者から見た新聞の特性やニーズを探り出します。深く掘り下げ、丁寧に相手の声を拾い上げ、表情や仕草など、言葉以外の面からも「情報」をしっかり汲み取ってください。

STEP02

情報を検証する

調査報告書の作成

ヒアリング調査の結果から、調査対象者のニーズと新聞社の持つリソースを重ね合わせ、何が実現可能な打ち手として有効なのかの検証と仮設立てを行ないます。

STEP03

セールスプロモーションのプランニング

販促活動の提案書作成

検証をもとに販売促進活動（セールスプロモーション）の企画を行ないます。つまり、新聞というメディアの強み・弱みや、これからのメディアを取り巻く環境の変化やライフスタイルの変化など、様々な要因に目を向けながら今後の販売展開において、どのような進め方が適切かを考えていきます。企画したものである実装の可否を新聞社社員と検討し、改善を繰り返しながら実装可能なプロモーションを作り上げます。

到達目標

「暮らしの中で活用され続ける新聞」をPRできる広報物（リーフレット）の作成

多様な世代に有効性の高い情報媒体としての新聞の魅力がPRすることのできる営業ツールが整います。
これにより、新しいスタイルの営業活動が行えるようになります。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



徳島新聞社
販売局販売部 部長
手束 泰二



新聞は文部科学省が学習ツールとして活用を推奨している商品です。

基礎学力や道徳心の育成に役立つものとして、現在の義務教育では全ての学年で新聞を使用した授業があるほどです。いざ社会に出てからも新聞は自身の思考に新たな視点を与えてくれます。

このたび私たちと一緒に仕事をする中で、新聞という商品と向き合ってみてください。必ず皆さんの未来に役立つはずですよ。

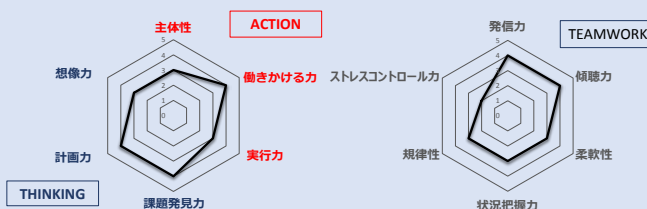
<ドン（学内メンター）から一言>



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
理工学域
講師
日下 一也

プロジェクトとはヒト・カネ・モノの制約の中で期限内に関係者全員が笑顔になる成果を得ることです。プロジェクトを進めると多くの困難が立ちふさがります。このとき、メンバー（ヒト）から笑顔が消えればプロジェクトは必ず失敗します。皆さんから笑顔が消えたとき、それを取り戻せるような助言をしたいと思っています。

<プロジェクトに取り組むことで身に付く 社会人基礎力レーダーチャート>



ロボットを活用して 社会の課題を解決しよう！

先進事例研究、徳島県内および四国全域の企業のニーズ調査等を通して、企業のロボットに関する販売拡大の手法を提案しよう！

港産業株式会社
徳島市川内町平石住吉 209 番地 1

どんな会社？

1950年創業の港産業株式会社は、“電気、熱、水”と産業の動力に注目し、様々なメーカーの代理店として最良の製品を世界に供給することで、快適な社会づくりに貢献しています。60年余りのお客様とのおつきあいから生まれた“港ブランド商品”も多く、菌床しいたけ製造設備は徳島県のしいたけ生産量日本一に貢献しています。また、ゆず、すだちの搾汁製造装置は馬路村を始め、高知県JA、徳島県JA等の団体において、大半の製品生産に使用されています。

近年は、ステアリング、ベアリングの生産設備、検査設備の自動機の海外輸出や、省エネ技術、オートメーション技術、エネルギー利用技術を応用し、スマートハウス、スマートファクトリー、スマートコミュニティの建設を支援する、スマートエネルギー部、ロボット専門の組織を設立するなど、積極的に最新の技術の導入を図っています。



チャレンジしてる事は？

「お客様の満足する価値ある製品・サービスを提供する。」を社是とし、お客様に喜んでいただける製品・サービス・ソリューション（顧客の抱える問題・課題を解決したり、要望・要求を満たすことができる製品やサービス）を提供しています。大手メーカーの様々な商品をお客様の要望に合わせて「カスタマイズ」することで、よりフィット感の高い製品を納めることができます。

2015年度からは新たに「スマートエネルギー部ロボット課」という組織を作り、ロボットによる、より快適な社会づくりを推進するサービスを生み出すべくチャレンジするなど、最新の技術の導入にも注力しています。今後も技術力と蓄積された知識を活かしたソリューションの提供を目指していきます。



徳島県内及び四国全域におけるロボット拡販プロジェクト立案

取り組む課題

STEP01

ロボット産業の現状と先進事例を把握する

調査報告
レポートの
作成

産業用ロボットやコミュニケーションロボットなどの各種ロボットについて、それぞれどのような需要があるのかを把握するため、担当者から市場動向のレクチャーを受けます。

STEP02

企業の潜在ニーズを調査する

企業ニーズ
レポートの作成

企業に対してヒアリング調査を行ない、市場やロボットに対する県内企業の潜在ニーズを明らかにします。

STEP03

ロボットを拡販させる施策を立案する

事業計画書の
作成

調査をもとに、どの市場に絞ってロボットの拡販活動を行うのかを、社員と共に検討します。その後、ロボットを拡販させるための施策を検討し提案します。若い皆さんの自由で斬新な着眼点、発想力に期待しています。



到達目標

ロボットを拡販させるための現状・課題・事業提案までをまとめた報告書の作成

企業のニーズに即した事業の提案ができることで
ロボット活用の市場が広がり、新たな顧客開拓につながります。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



港産業株式会社
オートメーションカンパニー
取締役
林 正



港産業株式会社
オートメーションカンパニー
執行役員
野口 栄美

若い方々の自由で、斬新な着眼点、発想力を発揮し、プロジェクトに取り組んで頂きたいと思います。

そして、自分自ら考え、創造する習慣をつけ、アイデアを出す力、企画力、行動力、協調力を養って頂きたいと思っています。

<ドン（学内メンター）から一言>

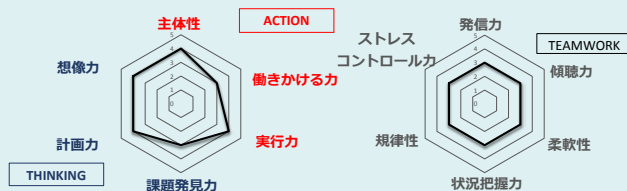
英オックスフォード大学で人工知能などの研究を行うマイケル・A・オズボーン准教授は『雇用の未来』という論文の中で、米国労働省のデータに基づいて、702の職種が今後どれだけコンピュータ技術によって自動化されるかを分析した結果、今後10-20年程度で、米国の総雇用者の約47%の仕事が自動化されるリスクが高いという結論を導いているそうです。

これは悲観すべき事ではなく、機械に任せられることは機械に任せることで労働を効率化し、人は人間にしか出来ないよりクリエイティブな仕事をすることで社会をより豊かにして行くことでもあります。徳島ではどのように仕事は変わってゆくののでしょうか？ 未来の働き方を先取りした方は是非、チャレンジしてみてください。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究所
社会総合科学域
准教授
矢部 拓也

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎能力レーダーチャート>



コールセンターアルバイトのブランディングプロジェクト⑤ 身につく力の発信プロジェクト

「コールセンターでのアルバイトを自らのキャリアアップの1つの機会として活用してもらいたい…」
アンケート調査を行ない、学生アルバイト採用活動用の
広報ツールを作成しよう！

株式会社テレコメディア
徳島市山城町東浜傍示 1-1

どんな会社？

株式会社テレコメディアは、創業以来ヒューマンサービスを軸に、通信・メディアを融合し「ヒューマンコミュニケーション」を創造する企業活動を展開しています。

東京および徳島に大規模コールセンターを配し、全国の様々な大手企業の通信販売の受注・問い合わせをはじめとするコールセンター運営を行なっています。

2004年9月には徳島県と市が推進するコールセンターの誘致認定第一号として、徳島市に「徳島コールセンター」を開設し活躍の場を広げています。

その後は、2014年の美波町を皮切りに、東みよし町、板野町といった、徳島県内でも郊外地域にも展開し、広く雇用機会の創出と地元人材の活用に寄与しています。これら3拠点は「ふるさとコールセンター」と名付け、現在100名のスタッフがホスピタリティあふれるサービスを行っています。



チャレンジしてる事は？

2014年、「人が集まる都市部で運営する」というコールセンター業界の常識を打ち破り、過疎の地域に小規模コールセンターを開設しました。これは、会社の理念として、「社会への貢献」こそが企業の大きな存在理由であり、企業の価値を定める重要なテーマであると考えているためです。

一般的にですが、特に女性は結婚や出産・育児を機にキャリアが一度中断することが多く、産休や育休の制度が整ってきたとはいえ、元の職場や業務への復帰が困難な状況です。しかしテレコメディアでは、徳島コールセンター開設以来、育児休業後の復帰率は、なんと100%です。

これはコールセンターが、働く人それぞれのワークライフバランスに見合った雇用形態を提供しているからです。テレコメディアでは、今後も1人1人のニーズや変化する社会の要求に柔軟にこたえていきます。

現在は、学生を対象とした、社会人基礎やマナーが身につくことにつながるアルバイトも企画しようとしています。

コールセンターとして社会問題解決に貢献し続けられる企業であり続けられるようチャレンジしていきます。



挑戦するプロジェクトについて

コールセンター業務で身につく力を整理し、魅力的なアルバイトとして若者にアピールする

取り組む課題

STEP01

アンケート調査を行なう

企業に向けた
事業提案書の
作成

徳島県内の大学に通う大学生に対し、アンケート調査を行ない、コールセンターに対する認知度やアルバイトの選択基準についての情報を収集します。また、コールセンターでアルバイト中の学生に対し、身につく力についてヒアリングを行います。

STEP02

情報を分析し、発信すべき情報を明確にする

広報企画書の
作成

調査結果をもとに、コールセンターで働くメリットや現状の広報の課題を明確にし、今後の広報の方針を検討します。

STEP03

リクルート用広報ツールを作成する

広報ツールの
作成

検証結果をもとに、具体的なリクルート用の広報ツールを作成します。今回作成したツールや採用活動方法は、一過性のものではなく継続的実施が可能な”仕組み”として定着を図りたいと思っています。

到達目標

新しい採用活動方法の提案とその広報ツールの作成

大学生の間でのコールセンターという業種に対する認知が高まるとともに、コールセンターでのアルバイトがキャリアアップにつながるという認知が広まることで、より多くの大学生に当社でのアルバイトを選択してもらうことができます。そのことが、ゆくゆくは若者の人材育成につながっていきます。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



テレコメディア
コーポレートデザイン部
マネジャー
葛籠 枝美



テレコメディア
コーポレートデザイン部
平島 夏美

テレコメディアは従業員が学べる会社、成長できる会社だと思っています。社会に出るとこれまでの学生生活とは違い、言動や所作に苦心するかもしれないと今から少し不安に思っていないですか。

是非このインターンシップを通じて社会人のマナーを学生のうちから体験し、就職活動や社会人生活に活かしてほしいと思います。当社での仕事経験はキャリアに近づける、社会にでる自分に自信が持てる経験になると思います。

この思いを学生へ発信し繋ぐ、仲間探しに力を貸してください。お会いできるのを楽しみにお待ちしております。

<コーディネーターから一言>



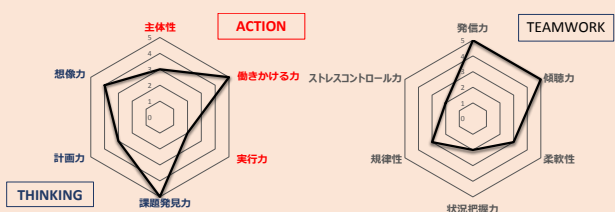
徳島大学
COC プラス推進本部
コーディネーター
川崎 克寛



徳島大学
COC プラス推進本部
サブ・コーディネーター
宮本 紀子

電話対応やマナーといった社会に出てから必要となる素養を磨くにはもってこいのプロジェクトです。「キャリアアップを図りたい学生」と、「学生に対し貢献したい企業」のマッチングを推進するプロジェクトですので、自身のキャリアアップはもちろん、コーディネーターのような職業を目指されている方にもおススメのプロジェクトです。ぜひご参加ください！

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



Top of TOYOTA ひとを、地域を、もっと笑顔に。 ～徳島のカーライフを変える～

若者の車に対するニーズを調査し、
販促イベントを企画運営しよう！

徳島トヨタ自動車株式会社
徳島市昭和町4丁目25番

どんな会社？

車の企画・開発を行い、工場生産するのがメーカーであるトヨタ自動車株式会社の役割、実際に車をご利用いただくお客様に対して車を提案・販売し、販売後もアフターサービスを行い、お客様と長いお付き合いをしていくのが、我々販売会社の役割です。販売会社がお付き合いの中からお客様が車に求めていることなど、お客様の声をメーカーに届けることで、より良い新しい車が開発されることとなります。

また、販売会社の中にも、4つの販売チャンネル（トヨタ店、トヨペット店、カローラ店、ネット店）があります。それぞれの販売チャンネルでは、お客さまのライフスタイルやニーズに促した取り扱い商品をラインアップとして有しており、販売チャンネルの特長を生かした店舗を展開しています。

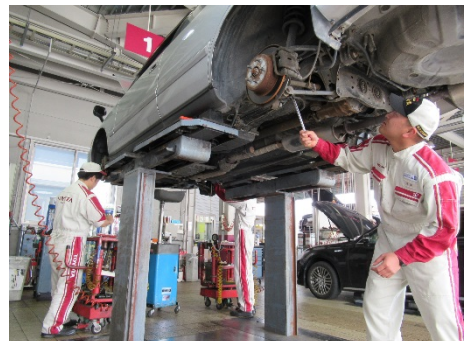
当社は、1944年（昭和19年）、徳島県下初のトヨタディーラーとしてスタートして以来、地域社会やお客様からの絶大なる信頼をいただき、県下自動車ディーラーの草分け的存在として日々躍進を続けています。



チャレンジしてる事は？

当社では、これまではクラウンやランドクルーザー等、他トヨタチャンネルと比較すると値段の高い車種を専売車として取り扱ってきたため、必然的にお客様の年齢層も高くなっております。

今後、専売車があらゆる世代に減り併売車が増えていくなかで、若年層の自社客を離さないこと、若年層の新規客を獲得することが重要であると考えています。若年層の車離れが進んでいる昨今、若者の車に対するニーズの把握や、ニーズに即した車の開発、既存のものとは異なる新しいアプローチの検討など、新しいマーケットの開拓に力を入れています。



挑戦するプロジェクトについて

若者の購買意欲を刺激するイベントの企画運営

取り組む課題

STEP01

大学生に対するアンケート調査

調査報告書の作成

若者が車に求めるニーズを明らかにするため、大学生を対象にアンケート調査を行います。大学内に広いコミュニティと人脈をもつ皆さんの力と立場を存分に発揮し、情報を収集します。

STEP02

販売促進イベントを企画・広報する

イベント企画書の作成

アンケート調査の結果をもとに、車の販売促進イベントを企画します。その際、若者に対して効果的な情報発信方法（広報）の検討を行ない、広報物の作成や情報コンテンツの発信等を行ない、集客も行ないます。

STEP03

販売促進イベントの運営

実施報告書の作成

企画したイベントを実施します。今回のターゲットである「若者」と同年代の皆さんの感性やIT（SNS や web）に対する知識と、我々がこれまで培ってきたノウハウを融合し、今までにない新しいイベントを作り上げます。

到達目標

若い感性を活かした新しいイベントの運営と集客方法の確立

本プロジェクトの達成により、得られた結果やプロセスを元に、今後ターゲットを絞った販促を実施する際にPDCAサイクルを活用した効率的なマーケティングを行うことが可能になります。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



徳島トヨタ自動車
業務課係長
有持 勝也



徳島トヨタ自動車
管理部
安田 壮

少子高齢化によるマーケットの縮小・ユーザーのライフスタイルの多様化・インターネットやスマホの普及など、販売店を取り巻く環境は日々変わり続けています。

当社としても今までの延長線上での取り組みだけでは持続的な成長はできないと認識しています。

こういった課題解決の足がかりとして、若者の車離れという観点から、本プロジェクトへ皆さんの若い力を注いでもらいたいと思っています。

かくいう私も実は徳島大学のOBで、“総科の人文”で学んでいました。先輩のみなさんと一緒にプロジェクトを達成できることを楽しみにしています。

<ドン（学内メンター）から一言>

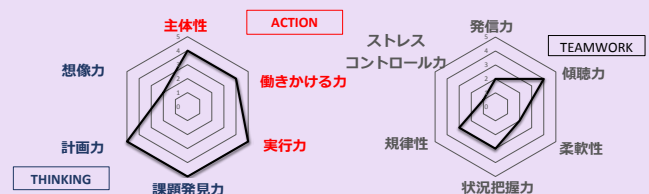
インターンシップの目的は、組織の風土を体験する、入社後のリアリティショックを軽減する、自分の得手不得手や可能性を知るなど様々ですが、組織のマネジメントを実践的に学ぶ絶好の機会でもあります。

座学での理論の習得のみでは得られない組織の諸問題を考え分析するスキルや経験は、どのような進路に進むにしても役立つはずです。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
社会総合科学域
准教授
松嶋 一成

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



地域に関われた大学の在り方を考える

地域の企業における大学の研究機器の利用ニーズを探り、企業に向けた提案書を作成しよう。

徳島大学大学院社会産業理工学研究部

徳島市南常三島町 1 丁目 1

どんな会社？

徳島大学大学院社会産業理工学研究部は、計測・分析等の研究機器を数多く有しています。現在、これらの機器を教育・研究・地域貢献により効果的に活用するためのセンターを発足させる準備を進めています。

企業等の機器利用に関する技術相談と学内研究者とのマッチング業務、機器の利用や分析に関するコーディネート業務、機器利用講習会の実施、装置利用貸付、装置メンテナンスと計測機器導入に関する提案等が、センターの主な業務となります。



チャレンジしてる事は？


平成 18 年度に教育基本法が改正され、教育・研究に次ぐ大学の第 3 の使命・責務として、培った深い教養や専門的能力、新たな知見を提供して「地域社会への貢献」を行うことが明文化されました。

「徳島の発展に貢献する、地域になくってはならない大学」を目指しています。

地域社会への貢献を行うためには、住民、行政、企業など様々な主体との連携を構築し、課題・ニーズを的確に把握して進めなければなりません。

徳島大学が行う地域連携活動は、行政の審議会への協力、プロジェクトへのアドバイスなどはもとより、「住民の安心安全を提供するための取組み」「地域社会・経済の活性化や産業の振興、雇用の創出に繋がる取組み」「豊かな人生を送るため生涯にわたって学習できる環境づくり」と広範多岐にわたっています。

現在、その一環として、徳島大学常三島地区に設置されている共用性が高い研究機器を、学内の先生方に加えて学外技術者（企業等）の方々に活用してもらうためのセンターを発足させる準備を進めています。



地域と共に未来へ歩む徳島大学宣言

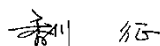
徳島大学は、徳島の地で、自主・自律の精神に基づき、真理の探究と知の創造に努め、卓越した学術及び文化を継承し、地域住民や地元企業、行政等と連携しながら、徳島県に所在する国立総合大学として地域課題と真摯に向き合い、地域の未来を心豊かで持続可能な社会とすることを最重要使命とし、次の基本方針に基づき全力で取り組み、地域と共に未来へ歩むことを宣言する。

基本方針

1. 地域課題の解決に挑戦する人材育成に取り組み
2. 地域産業のイノベーションに貢献する研究開発に取り組み
3. 地域医療・福祉の充実・発展に取り組み
4. 地域のグローバル化に取り組み
5. 地域文化の継承と発展に取り組み

平成26年8月29日

徳島大学長



常三島地区 研究機器広報プロジェクト

取り組む課題

STEP01

貸し出し可能
機器リストの
作成

情報を整理し機器リストを作成する

徳島大学が所有している様々な研究機器に関して、現在その機器を管理している担当教員に、その機器の用途や性能に関してヒアリングを行ない、分かりやすく整理された「企業等へ貸し出し可能な機器リスト」を作成します。

STEP02

企業ニーズ
調査報告書の
作成

企業のニーズを調査する

指定された企業に訪問し、企業側の研究・開発・分析等に関するニーズを調査します。企業はどのような機器を求めているのか、どのような仕組みにすれば企業が利用しやすいのか、といった顧客のニーズをしっかりと拾い上げることが重要です。

STEP03

企業に向けた
事業提案書の
作成

企画提案書を作成し、プロモーション（センターの利用促進）活動を行なう

調査の結果とセンターの設立主旨との整合性をはかり、企業に対する営業ツール（企画提案書）を作成します。作成した営業ツールを持って企業を訪問し、プロモーション活動を行ないます。



到達目標

実際の企業に対し、徳島大学常三島地区にある装置活用の事業提案が行なわれる

センターの主旨に沿って、実際の企業のニーズに応じた提案モデルが複数作成されることで、センターの方針が具体的に見えるようになります。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



徳島大学
大学院社会産業理工学研究部
情報光システムコース光系
教授
原口 雅宣

社会で成功している人達は、相手や自分と自分たちの組織の立場と時間軸を考慮して、最終目的や目標に向け優先するべきことを考え行動をしています。このことは経験を積み重ねなければ、なかなか身につけません。その一端を、このインターンシップで是非学んで欲しいと思います。

現在、とくしま地域産学官共同研究拠点を中核として、常三島地区にある機器を教育・研究・地域貢献に活用するためのセンターを発足させる準備が進んでおり、学生の皆さんの力を生かして、同センターをより良いものにしたいと考えています。

<サポーターから一言>

このプロジェクトでは、計画力や情報収集力、コミュニケーション力など、いろいろな力が必要です。

自分の力を試してみるにはとても良いチャレンジだと思うので、一歩踏み出してみる価値はあると思います。

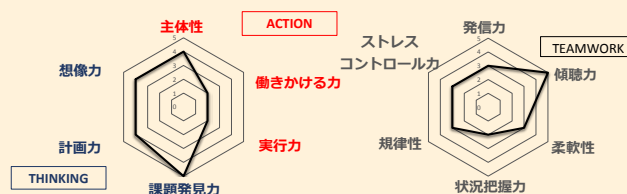
不安はあると思いますが、興味があるなら思い切ってやってみましょう！

必死に働いてみる経験や、仲間、企業の方との出会いなど、きっと得られるものがあると思いますよ。



徳島大学
研究支援・産官学連携センター
リサーチ・
アドミニストレーション部門
技術補佐員
花房 世規

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



社員が生き生きと健康的に働ける 職場の環境整備を検討しよう！

社員へのヒアリング調査や各種データの分析を行い、
社員の健康状態改善の打ち手を提案しよう！

大塚テクノ株式会社

徳島市鳴門市瀬戸町明神字板屋島 120 番 1

どんな会社？

大塚グループでは、食品・飲料だけではなく、新薬の開発、医療機器の開発などの医療関連事業も行っています。当社はこれら医療関連の領域にて、合成樹脂成形製品を「高い技術力」「クリーンな環境」「優れた品質」のもと製造し販売を行なっています。

当社の歩みは、医療品の輸液容器プラスチック部材の開発・製造から始まりました。現在では、国内だけに留まらず、海外へも生産拠点を拡大しています。

また、医療品のプラスチック製造で培った成形技術を活かし、LEDパッケージ製品の製造やリチウムイオン電池の安全装置の製造など、電子分野への参入にも成功しています。



チャレンジしてる事は？

大塚グループは'Otsuka-people creating new products for better health worldwide'（世界の人の健康に貢献する革新的な製品を創造する）という企業理念のもと、「大塚だからできること」「大塚にしかできないこと」を日々実践しようと努めています。

健康に携わる大塚グループとして、当社は、お客様はもちろん、大塚テクノで働く社員一人一人に対しても、より豊かで健康的に暮らせるよう貢献していきたいと願っています。育児休業や有給休暇の取得促進等、ワークライフバランスに配慮し、従業員満足度の高い職場環境づくりを行うことが、結果として、企業業績を向上させる社員の育成につながり、お客様に対するよりよい製品・サービスの提供につながると考えています。



スポーツ大会風景



食堂風景

挑戦するプロジェクトについて

働く環境について考える

～ “健康×食” の視点で社員の健康状態改善の打ち手を提案する～

取り組む課題

STEP01

現状を把握する

生活環境調査
案の作成

健康診断の結果や社員へのヒアリング調査から、大塚テクノで働く社員の健康状態を把握します。何故そのような結果になっているのか、診断結果の数値だけで判断するのではなく、相手と向き合い丁寧なヒアリングを行うことで、より正確に現状を把握していきます。

STEP02

情報を分析する

調査報告書の
作成

各々の健康状態と生活環境・業務内容・年齢・勤務地の地理的要因などを分析し、健康に働くための条件を検証します。また、大塚テクノで現在行なっている職場の環境向上の取り組みを整理します。

STEP03

健康状態改善のアプローチ方法の企画及び実行

改善計画書の
作成

分析をもとに、社員の健康状態を改善するため、食に関する指導方法の開発や社員食堂の改善等、“食”の視点からのアプローチ方法を企画・実行します。

到達目標

健康管理の意識向上に向けた施策または健康増進に関する職場環境整備の施策を企画・実行する

“食”の視点からの健康状態改善の施策が提案されることにより、従業員満足度の向上につながっていきます。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



大塚テクノ株式会社
人事総務部
長谷川 恵理



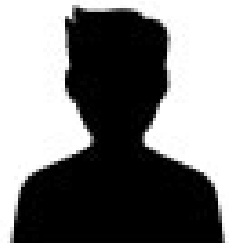
社員が健康で生き生きと働ける職場環境について一緒に考えます。

社員の健康管理や健康増進は長期的に企業価値を高める結果となります。また、社員の価値観の多様性を受容した制度設計を行った企業は社員のモチベーションを引出し、優秀な人材をひきつけると考えておりますので、今後、社員の健康促進に向けた取り組みを開始したいと考えております。

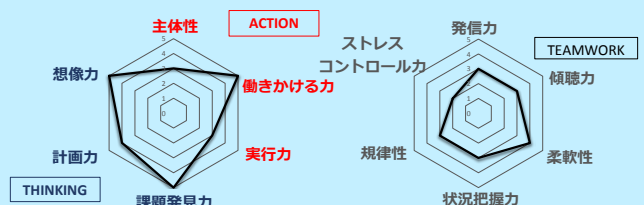
<ドン（学内メンター）から一言>

徳島大学
医学部医科栄養学科

Coming soon…



<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



よりよいこれからの暮らしに コミットできる企業を目指して

プロジェクト⑨

お客様のご自宅を訪問し、生活に関する調査を行なう。
調査結果を元に、商品開発とお客様の声を冊子にまとめる。

アール・エスホーム株式会社
松茂町笹木野字八北開拓 162

どんな会社？

私たち、アール・エスホーム株式会社は、アイフルホームのFC（フランチャイズ）店として、ここ徳島県で、オーダーメイドの住まいをお客様にご提供しています！

お客様のご要望以上に、良い家を提供し、地域の皆様に笑顔と幸せの輪を広げ、社会を豊かにする貢献ができるよう、社員一丸、取り組んでいる「マジメでオモロイ」会社です。

全国 161 店舗の中で「Best of EYEFULHOME 賞グランプリ」にも選ばれています。

※この賞は全国アイフルホーム加盟店の中で、総合的に一番優れたお店として選ばれる賞になります。



チャレンジしてる事は？

我々は「家」を売っているのではありません。「お客様の豊かな人生」を売っています。「家」はお客様にとってこれからの人生を創っていく舞台、つまり“人生そのもの”であると思うからこそ、ただ“家というハコ”を売るのではなく、“家を通じた豊かな暮らし”をお客様に提供すべく、日々お客様第一に住宅提案を行なっています。

“豊かな暮らし”とは何か、お客様ひとりひとりに理想の暮らしがあると思いますが、我々は、今は失われつつある「日本の暮らし」こそが、より豊かな暮らしにつながるヒントではないかと考えています。かつての日本家屋はふすま一枚で隔たれており、常に家族の気配を感じることができました。どんなにケンカをしても、暖かい囲炉裏を囲うために皆が肩を寄せ合いました。

機能的で生活しやすい家であることはもちろんですが、こうした家族との関わり方や地域との関わり方、環境まで考慮にいたした住宅を提供することで、お客様の暮らしを豊かに、そして人生そのものの豊かさにコミットメントできる会社を目指しています。



お客様の声から見える、豊かさの「ミライ」

取り組む課題

STEP01

ヒアリング
報告書の
作成

ヒアリング項目を策定し、生活調査、満足度調査を行なう

ヒアリングを行なうに際し、まずは項目を策定します。その後、家をご建築いただいたオーナー様の中からこちらで選定したお客様宅を訪問し、ヒアリングを行ないます。お客様が住環境に求めるものは何か、どのような暮らしを求めているのか、学生ならではの話しやすさでお客様の本音を聞きだしていきます。

STEP02

冊子企画書の
作成

情報を検証する

ヒアリング結果から、お客様の暮らしに対するニーズや住まいが生活に与える影響を明らかにし、それに対し当社ができることは何か、社員と学生で検討します。

STEP03

お客様の声冊子
の作成

お客様の声冊子を作成する

調査結果をもとに、お客様の声を踏まえた商品開発と声をまとめた冊子を作成します。プロのデザイン会社と打合せを行ないながら、まとめていきます。

到達目標

お客様の声を踏まえた商品開発と、声をまとめた冊子の作成

お客様が求める“豊かさ”とは何か、住まいがお客様の生活に与える影響とは何かが分かることで、よりよい暮らしを提供するために我々ができることは何かが見えてきます。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



アール・エスホーム
総務課長
福永 真理

アール・エスホーム
代表取締役
多田 譲治



学生の間は、社会がどういうものか分からないまま、避けられぬ進路決定の瞬間がきてしまいます。社会に出る前に、自らにとっての「学生時代の意味は何か」を考え、何を学生時代に成すのか？大きなものである必要はないと思いますが、学生時代を終える時に、「やりきれた」と思える。将来に、学生時代を振り返った時に、人に語れる経験を数多くして欲しいと思っています。

今回のインターンシップを通して、良い意味で野心をもち、目的をもって、貴重な学生時代を活かしきって欲しいと願っています。その上で、少なくとも「後悔はない」と思える進路を決定して欲しいと思います。

未来の可能性を開けるには、今を輝かせることはとても大切です。人の輝きが地域を輝かせます。その人財を育てる一助になることは、私たちの社会への貢献の1つとも考えています。

<ドン（学内メンター）から一言>

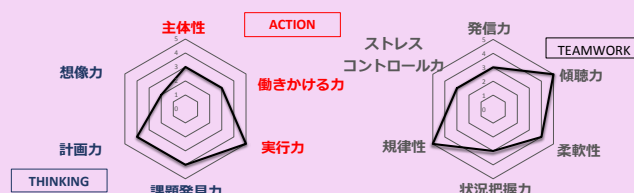
社会人基礎力として「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」が大事だと言われています。

社会に「踏み出す」ことは勇気のいることですが、自分の目標を設定し、失敗を恐れず粘り強く取り組むことができれば、それは大きな自信に変わります！



徳島大学
創新教育センター
助教
金井 純子

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



中長期における経営戦略を策定する

榎山農園の経営陣へのヒアリングを通し、
榎山農園の理念にちなんだ事業戦略を可視化しよう！

有限会社榎山農園

小松島市坂野町字松木 12

どんな会社？

有限会社榎山農園の生産・販売品目はトマト、米、麦、大豆、小松菜、しいたけであり、自社の農産物を原料とした加工品の製造およびOEM（委託者のブランドで製品を生産すること）による製造・販売も手がけています。

増え続ける地域内の耕作放棄地を引き受けて地域農業の主たる担い手となると同時に、マーケットは幅広く全国・世界を視野に入れて展開しております。6次産業化については農業をより魅力的かつ発展させるための手段の一つと考えており、地域経済に貢献する商品の開発・販売を実現したいと思っています。加えて、海外での現地生産も視野に入れており、実現に向けて調査等の活動を行っています。



チャレンジしてる事は？

榎山農園では「榎山農業で世界を幸せにする」という経営理念のもと事業を展開しています。近年、6次化産業への業態転換を図り、事業としての農業経営のスタイルを確立していこうとしています。

環境にまで配慮した日本のものづくり哲学と欧米の合理性を融合させ、人、組織、地域やコミュニティ、環境にまで配慮した、独自の新しい農業法人としての確立を目指しています。



挑戦するプロジェクトについて

これからの農業の在り方を考える ～経営戦略にちなんだ事業戦略を可視化する～

取り組む課題

STEP01

経営理念の理解・現状を把握する

レクチャーレポート
の作成

まずは『榎山農業で世界を幸せにする』という榎山農園の経営理念を理解するため、榎山農園社長・専務にヒアリングを行います。その後、現況の中での日本の農業の課題を知るため、レクチャーを受けます。

STEP02

事業戦略を可視化する

事業戦略書
の作成

榎山農園のビジョン（在るべき姿）とミッションを言語化・可視化します。そして、これらが達成できる組織体制（価値観の共有も含みます）とはどんなものかを描きだします。

STEP03

ステイクホルダーを策定する

調査報告書の
作成

ステイクホルダー（利害関係者）の策定を行ないます。



到達目標

経営理念が反映された事業戦略スキームをA3用紙 1 枚に描ききる

農業法人としての榎山農園のビジョンを明確にすることができます。そのビジョンを叶えるために、榎山農園が「農業という手段」を用いてどのようなことができるのかを客観的に示せるようになり、中・長期に渡る経営戦略の策定につながります。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



有限会社榎山農園

堀江 裕輔



小松島市、阿南市で若手中心で農業を頑張っています。今後、農業法人として原点である生産を基に様々なビジネスチャレンジを時代のニーズに合わせて行っていきたいと考えおります。

個人農家から農業法人へと農地のドミナント化が加速する時代の中で自分たちの特色を出した新しいSTYLEの農業を創造しましょう。

農業知識がない方でも興味があればぜひご参加下さい。

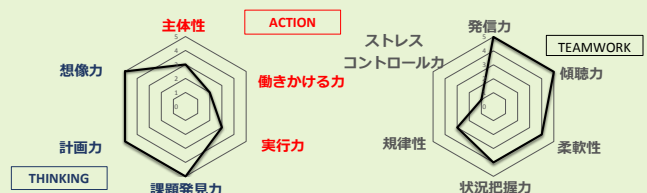
<ドン（学内メンター）から一言>

将来、皆さんは社会の一員として何らかの職業に従事すると思います。混迷の度合いを深める経済環境の下、“働くことはどういうことか” “どのように働きたいか” しっかり考えておくことは非常に重要です。その意味で学生時代に経験できるインターンシップは貴重な場です。この機会を積極的に活用し、将来を考える糧にして下さい。



徳島大学
生物資源産業学部
博士
橋本 直史

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



「100年先に誇れる仕事を」 未来を支える人財採用のツール作成

社員へのインタビューや現場取材を行ない、
当社が求める人材を獲得するための広報ツールを作成しよう！

株式会社松本コンサルタント

徳島市東吉野町2丁目24番地6

どんな会社？

人に関する記録として「戸籍」があるように、土地に関する記録に「地籍」があります。株式会社松本コンサルタントは、昭和46年創業以来、40年以上にわたり国づくりの礎となる地籍調査事業を中心に取り組み、数多くのノウハウと実績を築いてきました。

現在では、空間情報コンサルタントとして業務内容を広げながら、計画・準備段階から先進のGNSS技術による測量・設計・GIS（地理情報システム）データ構築、システム開発まで、総合的かつ継続的な提案をしています。

また、全国15ヶ所に支店を展開し、全国有数各方面から優良業務表彰を受賞するなど、業界内外問わず全国的に高い評価と信頼をいただいています。

これからも、日々変化する社会環境に対応し、社会に貢献できる企業として、「100年先に誇れる仕事」を目指して努力を続けていきます。



チャレンジしてる事は？

公共事業を取り巻く環境は時代と共に変化してきましたが、平成23年3月の東日本大震災を大きな契機として、より人々の生活に密着した公共事業が求められるようになってきました。当社が創業以来注力してきた地籍調査に関しても、今後は明確な土地境界が必要であるとの再認識から、積極的に推進される状況となっています。

そうした中で、私たちは公共事業に携わる企業として、少しでも社会や地域に貢献できるよう、GNSS（汎地球測位システム）・MMS（三菱モバイルマッピングシステム）などの新技術を取り入れています。

人間力と技術力を兼ね備えた「人財」を育て、顧客に信頼され続け、これからも地域から選ばれる企業であることを目指しています。



挑戦するプロジェクトについて

魅力発信 未来を支える技術者たちへ

～当社が求める人財を確保するためのツールを作成する～

取り組む課題

STEP01

企業課題
レポートの
作成

企業の現状と課題を把握する

企業の各部門の業務内容等について理解を深め、求める人財像や、これまでの採用活動の状況等についての現状を把握するため、当社の社員からレクチャーを受け、現状と課題を整理したレポートを作成します。

STEP02

リクルート方針
提案書の作成

資料収集と分析

他社のリクルート用パンフレットを収集し、当社既存のパンフレットも含め、就活生に近い年代の皆さんの目線でそれぞれのパンフレットの強み、弱みを分析し、リクルート方針の提案を作成します。

STEP03

具体的な
広報ツールの
作成

リクルート用広報ツールの作成

提案に沿ったリクルート用の広報ツールを作成します。掲載するコンテンツや構成を社員と共に議論を繰り返し、必要に応じて社内での社員インタビュー、現場取材等を行ないながら、実際に活用できる水準のツールを作成してもらいます。

到達目標

リクルート用のパンフレットおよび会社紹介用パワーポイントの作成

学生の視点を盛り込んだリクルート用の広報ツールが完成することで、当社が求める人財に効果的にアプローチすることが可能になります。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



株式会社松本コンサルタント
総務部
森口 浩史



今回のインターンシップでは、当社の事を知らない学生に、当社の業務内容や「人」に興味を持ってもらえるようなパンフレットを作成したいと思います。

また、当社の魅力を外に向けて発信するだけでなく、インタビュー等を通して、社員も気づいていない魅力を発掘できることも期待しています。

一緒に会社の魅力が十二分に伝わるパンフレットを作りましょう!

<ドン(学内メンター)から一言>

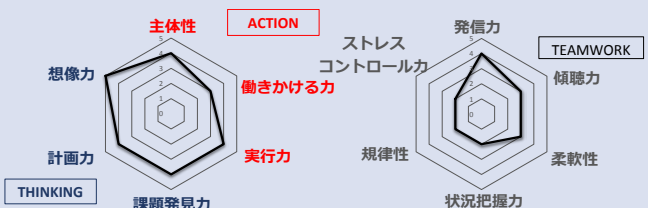
建設コンサルタントは「サービス業」に分類され、建設業と建設産業は意味する範囲が異なります。そこではいま、急速に情報化が進められています。次世代の建設産業に求められるのは、土木・建築にとどまらず、情報分野・地理学・歴史・通信・マネジメント・経済・法など、様々な専門分野で活躍できる人材です。道路、橋や建築物を使わず生活する事は出来ません。

建設産業はその国のあり方や将来を大きく左右する責任ある分野です。本インターンシップは学生の時に広い視野で物事を見る良い機会を皆さんにご提供できると 생각합니다。一緒に建設産業の未来を語りませんか。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
理工学科学域
特任助教
森本 恵美

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



地方からはじめる。 未来を生き抜く子供を育てる教育法の開発

できない理由ではなく、「どうすればできるか」を考えられる可能思考。
人づくりに関する教育にかかわりながら、可能思考ができる人を育てる
アクティブ・ラーニングのプログラムを開発しよう！

一般社団法人 Disport
海部郡海陽町大里字北山下4番地1

どんな会社？

一般社団法人 Disport は 2016 年 12 月に創業した、新しい団体です。徳島県海陽町を拠点に地方創生の最前線で行政向けのハンズオンコンサルティング（実際に活動しながら行うきめ細かな支援）事業と地域教育事業の 2 つの事業に取り組んでいます。

通常のコンサルティングは、戦略策定等の“助言”までが仕事ですが、人材不足の地方では、その戦略を実行する人がいません。まさに絵に書いた餅になってしまいます。戦略策定から、実行部隊として入り込む戦略に沿った事業の実践まで行ないます。

地域教育事業では、世界初の人工知能(AI)型教材「Qubena」を使用した学習塾「D-Study」と「ふるさとしごと塾」を運営しております。人口減の進む地方では教育の質の担保が難しい状況です。また、非効率な教育は、子供たちが学業にかける時間を増やしてしまいます。そこで、「D-study」では学習効率を高め余暇時間を抽出し、その余暇時間で「ふるさとしごと塾」を開講することで子ども地域に対する興味を開拓し、未来を生き抜く子供を育てています。



チャレンジしてる事は？

近年、「地方創生」という言葉だけが先行して、真に成功したと言える地域は多くはありません。多くの地方の町が人口流出に喘ぎ、人口集中する都市は働き方・生き方が疑問視されています。前職でインドネシアへの赴任中、外から見た日本に危機感を持つと共に、地方にこそ日本再興の可能性があるのでと感じていたところ、同じ思いをもつ同志（現在の共同代表：早川氏）に出会い、転身を決意しました。

我々は実際に地域に住み、地域の一員として本物の地域資源を活かした仕事づくり、ひとづくりを通してこの未来を変える事に挑戦しています。

地方も都会も含めた日本全体が日本人にとって誇らしく、挑戦できる場所となるように日本の課題と向き合っていきます。



挑戦するプロジェクトについて

子ども達の可能思考性を育成する アクティブ・ラーニングの新プログラムを開発する

Mission

STEP01

調査報告書の
作成

現地の背景・現状を学び、取り組む課題とその解決策を考える

まずは海陽町に赴き現地を視察することで、地域や当団体運営の塾に対する認識を深めます。その後、可能思考^{※1}の鈍化という教育上の課題に対する原因を究明し、子供たちの可能思考がより発揮できるための解決策を検討します。

STEP02

授業企画書の
作成

アクティブ・ラーニング^{※2} 授業の企画・実施

子ども達の可能思考性を育成するための、要素を組み込ませた授業のプログラムを企画し、その効果を検証するために、「ふるさとしごと塾」において実際に授業を行います。授業は複数回にわたり実施し、改善を繰り返しながら、効果の高いプログラムに仕上げます。

STEP03

授業報告書の
作成

授業の試行と改善による効果的なプログラムの開発

授業は複数回（3回程度）にわたり実施し、検証と改善を繰り返しながら、効果の高いプログラム開発を行います。最後に、開発したプログラムを実施することによる学習効果を整理し、まとめます。

到達目標

効果的なアクティブ・ラーニングのプログラム検討、報告書の作成

子ども達の可能思考を伸ばすアクティブ・ラーニングのプログラムが開発されることにより、ひとつづくりに向けた具体的な打ち手が見えてきます。

※1 可能思考…できない理由ではなく「どうすればできるか」を考えられる思考。

※2 アクティブ・ラーニング…能動的学修。これまでの一言講義型の授業ではなく、生徒達が主体的に学び合う学修スタイルをさす。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



Disport
共同代表/
人材育成事業部長
高畑 拓弥



Disport
共同代表/
コンサルティング事業部長
早川 尚吾

我々はまさに”地方創生スタートアップ企業”として、2016年12月に創業しました。

創業者2名共に、前職は別々の総合商社に務めており、お互いの駐在先インドネシア・ジャカルタで出会いました。発展途上国と呼ばれるインドネシアの成長は著しく、特に現地の人間が自国を盛り上げようとする熱量に圧倒されました。

一方で自国日本を振り返った際、我々の世代が本気で自国を想う気持ちを行動に移していかなければならないと思い、地方創生で喘ぐ日本の課題を解決すべく、独立して海陽町に飛び込みました。共に未来を切り拓く挑戦をしてくれる方をお待ちしています！

<ドン（学内メンター）から一言>



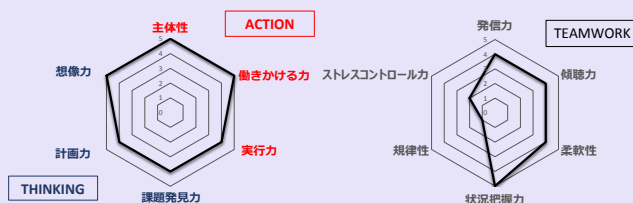
徳島大学総合教育センター
特任講師
畠 一樹

これまでの生活や教育環境の中で、無意識に習慣となっている可能性を摘んでしまう「不安思考」のために、自分の希望（将来像）を発見できない、発見したけど実現するには一歩前に進むことができないといった問題が生じています。そのような「不安思考」を切り替え、インターンシップで子どもたちと関わりながら、「可能思考」を取り戻していただきたいと思っています。

将来に向けて、大きな課題に向き合うための小さな一歩（ベビーステップ）が踏み出せるよう伴走させていただきたいと思っています。がんばりましょう！

<プロジェクトに取り組むことで身につく

社会人基礎力リーダーチャート>



メディア あわわ 新たなる挑戦！

WEB コンテンツを企画・発信し、あわわの社員を対象に WEB 勉強会を開催する。
 インターンシップの活動を通して社内で WEB に対する意識変革（WEB ウェーブ）を起こそう！

株式会社あわわ
 徳島市徳島市南末広町 2-95

どんな会社？

株式会社あわわは、「あわわ free」や「Geen」といった月刊誌等を出版する「出版事業」、タウン誌制作で培ってきたノウハウを活かし、店舗や企業のパンフレット制作やイベント運営などを行なう「セールスプロモーション事業」、徳島の有名建築家と家を建てたいお客様をつなげる「建てようネット事業」、そして、WEB サイトの制作や自社メディアの管理・運営などを行なう「WEB 事業」の 4 事業を展開しています。

「徳島を元気にする！」を企業のミッションに、徳島の生活者であるファンに支えられつつ、『街の暮らしに役立つ情報&街のハッピーな情報』を皆さんに届け続けています。情報を届けるための手段であるメディアは、時代の流れとニーズと共に変化させています。月刊誌からはじまり、ムック、フリーマガジン、web メディア等、様々なメディアのカタチにチャレンジしています。



チャレンジしてる事は？

“街の情報”というのは、“街の魅力価値・文化”だと考えます。

- 街の魅力・価値・文化に気付けば、人は動く。
- 街の魅力・価値・文化に感動すれば、人は動く。
- 一人が動けば街は動き、そして元気になる。

その気づきと感動の場をいかに創出していくかがまさに、私たちの使命です。株式会社あわわでは、これまでも、これからも「徳島を元気にする」会社であり続けるために、その時々時代に合わせたメディアツールを使って徳島の街の情報を皆さんに伝えてきました。

今回の WEB 事業の立ち上げもこの一環です。

- 徳島を元気にする。
- 街とつながり、街とともに生きる。

それがあわわのミッションであり理念であります。その実現に向けて、全力でチャレンジしています。



WEBウェ〜ブ プロジェクト

取り組む課題

あわわにWEBのウェ〜ブを起こそう！！

今年度、新しくWEB事業部を立ち上げましたが、社内スタッフは忙しい&WEBへの苦手意識から一歩引いてしまっています。しかし！！WEBで発信すべき情報は各編集スタッフ・営業スタッフが持っている生きた情報！しかもWEBはスピードが命！・・・と、いうわけで、WEB事業の成功は社内を大きく巻き込んでいく必要があります。そこで今回のプロジェクト！

STEP01

WEBの基礎知識をお勉強、WEBコンテンツを企画してみよう！

Webコンテンツの企画書作成

WEBコンテンツの制作にあたり、まずはWEBについての基礎知識をお勉強！その上で、雑誌社がどのようにWEBを使うと効果的にお客様に伝わるかを考えて、WEBコンテンツを企画してみましょう！

STEP02

企画したものを実際にやってみよう！

Webコンテンツの作成

企画したWEBコンテンツに必要な情報や原稿は、各事業部のスタッフから情報を吸い出したり、原稿を書いてもらったりして、社内各部署と連携しながらWEBコンテンツの制作・発信を行ないます！

STEP03

あわわスタッフにWEBのことを教えてあげよう！

Web勉強会報告書の作成

プロジェクトの終盤には、あわわスタッフを集めたWEB勉強会を開催し、皆さんが講師となって、インターン中に培った知識を伝授してもらいます！



到達目標

WEBコンテンツの制作、およびWEB勉強会の開催

他部署スタッフも学生を通してWEBに触れる機会が増えることで苦手意識を払拭することができ、あわわに大きなWEBの波を起こすことができます！
WEB事業が加速すれば、紙では表現しきれないこと、実現できない仕組みを構築できるようになります。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



あわわ
執行役員/
WEB事業部マネージャー
大汐 哲也

みなさんが日ごろ何気なく使っているWEB。便利だから、面白いから使っているのだと思います。僕自身がそうでした。しかしその裏側には様々なビジネス的な仕組み(仕掛け)が隠れていることが多く、それを知ることは利用者の立場でいるよりもっと面白いものです。

私たちの理念は「街とつながり、街とともに生きる」、目指すビジョンは「日本一のローカルメディア集団」です。これらの理念・ビジョンを実現していくためには既存の紙を用いた事業とWEBを上手に融合し、シナジーを生むことが絶対不可欠です。

WEBの仕組みを一緒に学び、ともにイノベーションを起こしてくれる仲間に出会えることを楽しみにしています！

<ドン(学内メンター)から一言>

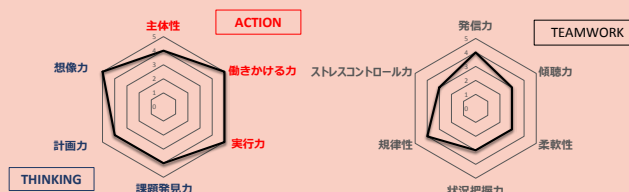
皆さんは今、徳島という地方に住み、学んでいます。しかし、この「地方」は決して閉ざされたものではなく、日本全国に、そして世界につながっている場所です。そのつながりを加速させるのがWEBであり、そして皆さんの若い力です。

徳島から世界に広がるイノベーションを一緒に起こしてみませんか？



徳島大学
教養教育院
イノベーション教育分野
講師
北岡 和義

<プロジェクトへの取り組みで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



地域包括ケアシステムの構築

プロジェクト⑭

～地域の健康サポート拠点を目指して～

在宅医療の現場に栄養士と同行し、高齢者に対してアセスメントと栄養指導を行なう。

在宅現場に栄養士が入ることの効果を検証し、
栄養士の活躍できる新たな雇用形態を創出する。

株式会社グローバル・アシスト

徳島市北常三島町 2 丁目 48 番地 1

どんな会社？

株式会社グローバル・アシストには調剤部、介護事業部、地域支援事業部の3つの部門があります。調剤部では、調剤薬局を運営しており、薬の調剤及び服薬指導を行っています。また、地域医療の充実を計れるよう、在宅医療の現場における服薬指導も行なっています。

近年、高齢化社会の進行に伴って、病院へ通うことができない患者が増加していますが、そうした患者に対しては、自宅で病気の治療ができる「在宅医療」が提供されるようになっていきます。

在宅医療の患者にとっては、薬が生命線になることから薬剤師の働きは大きいものとなります。現在、全国的に見ても在宅医療を支援する薬剤師の数は少ないですが、当社は積極的に在宅医療の現場へ薬剤師を派遣しています。



チャレンジしてる事は？

健康サポート薬局、かかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師、という新たな制度ができ、現在当社は調剤薬局として次のステージを目指す転換期でもあります。

ひとりひとりのお客様の健康と安心・安全を追求し、既存の「薬局」に囚われず、**新しい調剤薬局のスタイルを確立**していくことが我々のチャレンジであります。

そのうちの1つとして、「在宅医療における地域包括ケアシステム」の構築に力を入れています。地域包括ケアシステムとは、高齢者が住み慣れた地域で介護や医療、生活支援サポートを受けられるよう、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」を包括的に整備し、相互に連携しながら在宅の生活を支援する、というものです。現在は在宅医療の現場に薬剤師を派遣し服薬指導を行なっていますが、ここに「栄養士」を派遣する、という新たな取り組みを検討しています。



挑戦するプロジェクトについて

調剤薬局における在宅患者訪問栄養相談の取組み ～在宅ケアの現場での栄養士に対するニーズを調査する～

取り組む課題

STEP01

地域課題
レポートの
作成

事業スキームを整理する

当社が目指す「地域包括ケアシステム」の仕組み（事業スキーム）についての理解を深めるための研修を行い、しっかりと共通理解を図ります。

STEP02

活動レポート
とりまとめ報告書の
作成

在宅ケアの現場に同行する

患者がもつ困り事やニーズに対する仮説を立て、アセスメント項目の作りこみを行ないます。栄養士および薬剤師と在宅現場に同行し、栄養や食事の観点からアセスメントを行ないます。

患者であるおじいちゃん、おばあちゃんにとっては、皆さんはお孫さんのような世代です。自然な日常会話から「相手が本当に伝えたいこと」を丁寧に拾い上げていきます。

また、所属の栄養士と相談の上、在宅現場にて患者に対し栄養指導を行ないます。インターンシップ期間中は継続的に指導を行ない、糖味チェックや血圧値から健康状態の変化をチェックします。

STEP03

栄養士の役割
設計報告書の
作成

分析・まとめ

アセスメントや栄養指導の結果から、高齢者の在宅医療に対するニーズを分析し、在宅現場に栄養士が入ることの意義や効果についてまとめます。

到達目標

在宅医療の現場に栄養士が入ることの意義・効果についてまとめた報告書の作成

栄養士が在宅医療の現場に入ることの意義や効果が、「患者のニーズ」と「客観的指標」の2方向から示されることによって、対外的にも示すことができ、地域包括ケアシステムの構築に近づきます。

挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



株式会社グローバル・アシスト
総務事業部
中谷 陽也

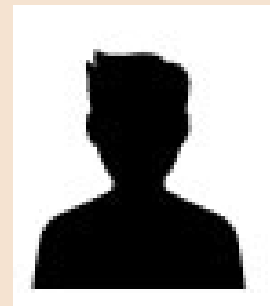


調剤薬局における栄養相談・在宅患者訪問栄養指導は、全国的にも他に類を見ない状況ですが、この度のプロジェクトにより栄養士の方の新たな活躍の場が生まれるものと思っております。

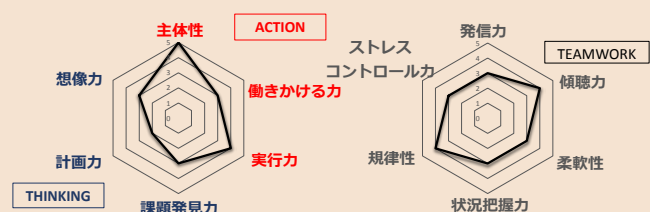
<ドン（学内メンター）から一言>

徳島大学
医学部医科栄養学科

Coming soon...



<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>



地域資源を用いた環境活動の事業化プロジェクト

木頭に眠る地域資源を発掘し、
日本三大杉の1つである木頭杉と組み合わせたツアーを企画する。

廣間組有限会社

那賀郡那賀町木頭出原字イシノモト 28-1

どんな会社？

廣間組有限会社は、徳島県南部の那賀川上流に位置する那賀町木頭（旧木頭村）に所在しています。木頭は徳島の最深部にあたり、急峻な山に囲まれた地形となっております。

当社は昭和33年の創業時から、木頭にて公共土木工事に携わり、林道開設や予防治山、国道改良や災害復旧、道路維持管理など地域のライフラインを担う大変重要な仕事をさせて頂いています。

また、これまでの事業活動と環境活動を融合させた環境経営にも力を入れており、平成27年には『山櫻プロジェクト』を立ち上げました。このプロジェクトは、木頭に残存する日本古来の桜『ヤマザクラ』の植樹を行ない、ヤマザクラの保全とCO2の吸収固定を同時に図りながら、地域にヤマザクラの観光名所を誕生させていくというプロジェクトです。ヤマザクラの間伐材を用いたお箸を製作・販売し、売り上げの一部を植樹活動に使用することで、お箸を購入いただいた方も環境活動に貢献できるしくみとなっております。



チャレンジしてる事は？

「このままではいけない、何かを変えなければならない」そのような思いの中、これまで当社を育ててくれた地域や環境、自然を見るにつれ、環境豊かなこの地で生きる自分達だからこそできることは何か、やらなければならない事は何か、そんな事を考えるようになりました。

そんな中、環境省策定のエコアクション21の『環境経営』という考え方に強く共感を覚え、この『環境経営』こそが、今後の我が社の、そして地域の大きな魅力になると考え、平成23年から今日まで、環境経営を推進してきました。

平成27年には『山櫻プロジェクト』を立ち上げ、現在は、ブランド杉である『木頭杉』を用いたお箸や木工製品を製造し、木頭杉の需要の増大と、間伐の推進による森林の健康化と災害防止等を目指し施策を検討中です。これらの活動を通し、エコアクション21をさらに加速させるべく、「生物多様性」「低炭素化社会」「循環型社会」の実現を目指していきます。



木頭杉ブランド再生プロジェクト

～地域資源を掘り起こし、木頭杉を使ったツアーを企画する～

取り組む課題

STEP01

現地視察

視察レポート
の作成

まずは木頭に赴き、現地を視察することで地域への認識を深めます。会社が取り組んでいる環境活動に関するレクチャーも行ないます。

STEP02

ヒアリング調査を行なう

調査報告書の
作成

木頭杉を使ったツアーの企画を想定し、木頭の伝統や文化・暮らし・歴史等についての理解を深めるため、地元住民や関係者へのヒアリング調査を行ないます。

STEP03

ツアーを企画する

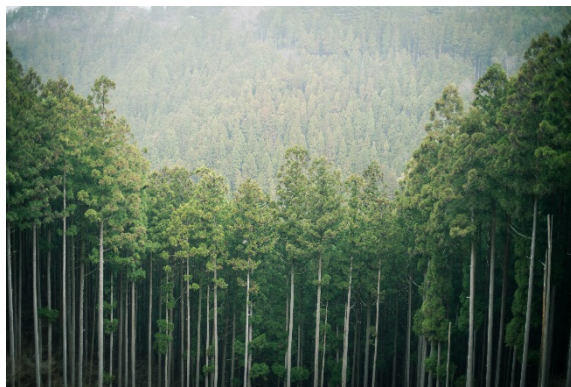
ツアー企画書
の作成

調査の結果を元に、木頭杉を使ったツアーの企画を行います。地元民にとっては当たり前すぎて気づかないような地域資源や、杉の新しい活路を見出していきます。

到達目標

実装可能な木頭杉を活用したツアーの企画書の提出

ツアー参加で全国各地からお客が訪れるようになれば、それは木頭に様々な知見が集まるということになります。
知見の集積は新たな商品開発につながり、それは社会問題の解決にもつながっていきます。



挑戦する学生へのメッセージ

<受入担当者>



廣間組専務
西田 靖人



廣間組事務
岡脇 麻美

木頭は市内から車で約2時間もかかる遠い地域ですが、木頭のような地方の最果てともいえる地域を振興させる事こそが本場の地方創生であり、この国を元気にさせる唯一の仕組み作りであると考えています。

今回のプロジェクトを進めるにつれ、私達もまだ見えていない問題や課題が出てくると思われますが、そうした問題や課題に直面する事で皆さんもまた悩み苦しむ事もあるかもしれません。しかし、問題や課題というのは『動く』事で初めて目の前に現れるものですから、問題や課題と対峙する事を恐れず、自分が動いた事の成果だと捉え、チームで解決し乗り越え共に成長に繋げていきましょう。

そしてこのインターンシップでの経験を今後の皆様の人生に活かし、様々な分野で役立て活躍して欲しいと願っています。

<ドン（学内メンター）から一言>

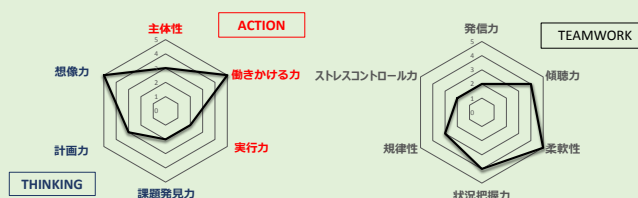
仕事をする時、地域のこと、社会のこと、そして何より、地域の方々のことをどれだけ考えられるかが、とても大事だと思います。

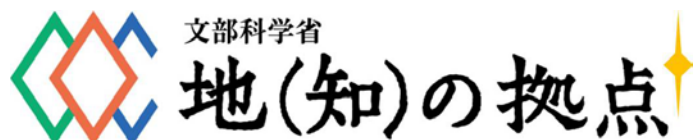
木頭杉って何？地域で暮らす人達は木頭杉とどうお付き合いしてきたの？木頭杉が今のままだと、何が問題なの？自分たちが参加するならば、どんなツアーだと楽しい？などを、地域に暮らす方々の声を聞きながら、地域の方々と一緒につくりあげていきましょう。



徳島大学大学院
社会産業理工学研究部
理工学域
助教
尾野 薫

<プロジェクトに取り組むことで身につく 社会人基礎力レーダーチャート>





2017年5月11日

徳島大学COCプラス推進本部

お問い合わせ・エントリーシート提出先

徳島大学COCプラス推進本部事務局

徳島大学常三島キャンパス内 地域創生・国際交流会館3階（地域創生課内）担当：川崎/宮本/森脇

TEL：088-656-9885 FAX：088-656-9880 MAIL：coc-plus@ml.tokushima-u.ac.jp